を改定した時初つた稱呼である。

チヤバタケ　茶畠　金澤の町名。笹ヶ町の末、野田寺町の後地である。昔は金澤附近にて茶を製すること稀であつたが、此の地と野田村とのみには茶畠があつたので、後郎地となつても之を地名に呼んだのであるといはれる。

チヤヤガハ　茶屋川　鹿島郡水白領はぎの谷から流出し、上領でじやうの川に落合ふ。流程二粁五。

チヤヤバシ　茶屋橋　金澤橋梁記に『茶屋橋、大樋に有之。』とある。此の橋は春日町の北端で、それより末を大樋町といつた。橋名の由來は、橋爪に茶屋があつたからである。

チヤヤマチ　茶屋町　金澤の町名。今愛宕町といふもの。舊傳に、藩初の頃は此の附近は比屋せず、市外の原野であつたから、旅人の茶店のあつたのがその名の起りであるといふが、矢張り文政の茶屋女公許以前既に隱賣女が居た爲の稱呼かと思はれる。旅人の通行する地理ではない。

チユウ　知有　→ダイオウチユウ　大應知有。

チユウエン　中淹　→ザイチユウチユウエン　在中中淹。

チユウガクセイコウ　中學西校　金澤藩が明治三年十一月の中學校規定により、皇漢學を敎へる爲、仙石町元明倫堂跡に置き、十二月十二日開始したものであつた。その設立は小參事岡島嘉三郎・大屬内藤誠の最も力を致した所で、敎師には藤田維正・永山平太・井口濟・河波有道・石黑嘉左衞門・東方眞平等があつた。中學西校は金澤縣となつた後も尙繼續せられたが、四年十一月中學東校と共に金澤中學校になつた。

チユウガクトウコウ　中學東校　明治三年十一月金澤藩に於いて、中學校敎科を皇漢洋三科と定めたものゝ中、洋學を授ける所を中學東校といひ、校舍は兼六園内舊巽御殿で、十二月十七日開始せられた。中學東校には小學科及び中學科を置いたが、その小學科は漸次之を廢し、小學所を以て代へる豫定であつた。中學科の内、舊致遠館から來た生徒を正則とし、挹注館から來たものを變則といつた。正則の英學敎師は岡田秀之助、變則の敎師は長野桂次郎・柴野昌之進であつたが、翌四年六月から英人エトウキン・サイモンソンが來て、正則の英語・數學を擔任した。中學東校はこの年七月金澤縣となつた後も尙繼續せられ、十一月中學西校と共に金澤中學校になつた。

チユウグウ　中宮　白山七社の一つで、石川郡中宮村に鎭座する。中宮村は初め筒笠村というたのである。白山記に、『有一勝地、崇山周八方、形似蓮華葉、地勢峙如三岳。寶社立其上、是號筒笠中宮。本地如意輪也。神殿三間一面、拜殿五間三面、彼岸所七間二面。又小社五所。又七間二面講堂。本佛大日如來。五尺洪鐘在之。又有三間一面殿。又新寶殿三間一面。金峯山小白山不動山御座。三間四面常行堂、本佛阿彌陀。三間一面法花三昧堂、本佛普賢菩薩。三間一面不動堂。夏堂。鐘樓。』と見えて、本宮に劣らぬ大社であつた。その祭神に關しては、同書に『中宮、本地如意輪。垂迹如本宮。但童形歟。』とある。白山嶺上の神祠と本宮白山比咩神社との間にあるによつて中宮というたので、中宮を中ノ宮と書いたものも見えるが、普讀するのが正しいのだらう。今は筒笠中宮神社と稱する。

チユウグウ　中宮　石川郡河内庄に在る部落。村名はもと筒笠であつた。そこに白山七社の一つなる中宮があつた爲、後に筒笠よりも中宮の方が地名として用ひられることになつたのである。

チユウグウオンセン　中宮溫泉　石川郡中宮を去ること東方八粁で、能美郡尾添から六粁の山中に在る。初は尾添の湯と稱したが、寛文八年尾添の部落が幕府の直轄地となつた際、中ノ川を以て加賀藩との領境にした爲、溫泉は中宮に轉屬して、爾後中宮の湯といふに至つた。しかし尙慣習上尾添溫泉ともいうて居た事は、元祿五年の北の山に、『白山の麓尾添の溫泉に入りて歸るさ。猿の子に別るゝ時の榎の實哉　魚素』などとあるに依つて知られる。又三州大路水經に之を鳩谷溫泉といふは、その所在地が東八谷である爲、八谷の溫泉というたのが轉じたのである。元和二年九月廿七日尾添村に與へた高札に、『一、當所湯入候者は、湯奉行に相斷、湯賃定令湯治候事。一、御家中之者、自然對他國人並村人、猥之作法於有之者、交名しるし可申上事。』などとあるはこの溫泉の事である。

チユウグウサンジヤ　中宮三社　白山の中宮と共に、その系統に屬する佐羅・別宮の各社を總稱していふ。白山記に『中宮・佐羅・別宮、此號中宮三社。』とある。

チユウグウハチイン　中宮八院　白山記に『中宮八院。護國寺・昌隆寺・松谷寺・蓮花寺・善興寺・長寛寺・涌泉寺・隆明寺。隆明寺外七院、輕海鄕内也。』とあるのは、何れも白山中宮末であらう。源平盛衰記卷四に『此時北の四ヶ寺に隆明寺・涌泉寺・長寛寺・善興寺、南の四ヶ寺に昌隆寺・護國寺・松谷寺・蓮松寺、八院の衆徒會合して使者を中宮へ立。』といひ、又白山宮莊嚴講中記錄に、『衆徒令離山、八院中聖隆寺へ奉レ入神輿。』とも載せられる。三州奇談に佛大寺・金剛寺・湯泉寺・蓮臺寺・立明寺・正蓮寺・五國寺・善光寺を八大寺とし、三州名跡志には金剛寺・正蓮寺・五國寺・蓮大寺・遊泉寺・小川寺・佛大寺を七大寺とし、越登賀三州志の註に正蓮寺・佛臺寺・金剛寺・涌泉寺・善興寺・護國寺・蓮臺寺等（一寺不明）を八大寺とする一說を載せたるなどは、何れもかの八院を誤傳したのであらう。

チユウグミ　中組　→モチカタグミ　持方組。

チユウケイ　中溪　白山遊覽圖記に中溪と記せられるものは、能美・石川二郡の界を流れる尾添川の上流中ノ川のことである。

チユウゲン　仲間　小者にして稍給分の多き者。一に仲間小者ともいふ。有澤武貞の軍旅御制法覺書に、知行千石（收納四百石）の士の使役すべき人數を圖つて、この内五十石宛の侍四騎、十俵宛の若黨足輕十二人、七俵宛の中間小者六人、六俵宛の小者十人とするを見て、仲間小者の地位がわかる。後世では專ら厩仲間卽ち馬捕を職とするものゝ義となり、そのうち藩の御馬奉行所屬のものを御馬捕ともいひ、諸士所屬のものを別當ともいうた。

チユウコウザツキ　中興雜記　鹿島郡酒井